

知の総合化・実践化を図る 総合的学習のカリキュラム 開発

長野県長野市立柳町中学校

とく たけ たか お

徳武隆夫

【実践の内容】

総合的学習を、体験的な活動を基盤とする問題解決的な学習を通して、知の総合化・実践化を図り、生きる意味や目的を自覚していく学習ととらえ、カリキュラムづくりと授業づくりに取り組んできた。

研究過程では、まず、教育課程における総合的な学習の時間の位置付けを明確にし、地域の特色や生徒の実態を踏まえてカリキュラムづくりの視点を決めだした。次に、昨年度のカリキュラム評価をもとに、題材内容とその配列を再検討した。そして、学習評価の基準・観点・方法を整理し、学習促進型の評価と指導を試みたことにより、個性的で創造的な学びの姿が見られるようになってきた。

【論文内容の紹介】

1 主題設定の理由

学ぶ意味を見失い、学ぶことと生きることをつなげることができない生徒の姿が問題となっている。学校知と生活知の乖離という実態に切り込んでいけるような総合的な学習の時間を創造したいと考え、主題を設定した。

2 研究の内容

(1) 教育課程の構造化

教育課程全体から「めざす生徒像」にアプローチするために、各学習の役割を明確にし、共通化と個性化のバランスを重視した教育課程を編成した。

(2) カリキュラムづくりの視点と題材配列

- ・今日的課題と生き方課題を3年間の中でバランスよく学べるようにする。

- ・習得型と探究型・体験型の学習を置く。
- ・前後期1題材ずつとし、1学年後期と3学年を学年・学級プランとする。
- ・各学年70時間を充て、1回の学習時間を100分間とする。

〔題材配列〕

- 1 学年前期 情報活用術（習得型）
後期 生き生き健康学（探究型）
- 2 学年前期 ゆぶくウォーク（探究型）
後期 14歳の自分探し（体験型）
- 3 学年前期 学級プラン
後期 社会の中で生きる私（生き方）

(3) 総合的学習の学習評価

1 学年後期から始まる問題解決的な学習では、個人内評価を中心とし、問題に主体的にかかわる態度、問題解決能力、見方・考え方を観点とした。また、観点到合わせて、観察法、面接法、自己評価法、ポートフォリオ法を組み合わせた評価計画を立てた。

3 実践『ゆぶくウォーク』（2学年前期）

通学区を流れる湯福川を辿ったり、善光寺を訪れてその魅力を改めて考えたりすることからスタートした地域研究。生徒は、教育ボランティアや地域の方々の力を借りながらフィールドワークを重ね、自己課題を設定し追求していった。湯福川の流路の変化、善光寺の火災と移動、長野市の水道問題などについて、多岐にわたる学習が展開された。

生徒は、地域を歩く中でもった疑問を連続的につなげて追究を深め、発見する楽しさを味わい、地域に対する見方・考え方を高めていった。

4 研究のまとめと今後の方向

保護者をアドバイザーとして招いたレポート発表会や、研究学年会、総合的学習係会においてカリキュラムを評価し、成果といくつかの課題を確認することができた。今後は、各小学校の総合的学習の展開を的確に把握しつつ、生徒一人一人にとってさらに魅力ある授業づくりを進めていきたい。